

2025年度

日本健康医療専門学校

シラバス （講義概要）

柔道整復学科

2年生

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能	東海大学医学部基礎医学系医学教育学 助教 解剖生理学ほか担当		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
形態機能学 2（生理学 2）		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山門 一平		3単位	45時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
医療従事者として身体の構造と機能を理解することは必須であり、解剖と生理学で構成される形態機能学は重要な教科です。構造あつての機能。機能のための構造として、カタチを知り機能を理解するために、多くの単語を使います。学習のポイントは、単語のネットワークとイメージです。基礎医学である形態機能学を”理解”し、臨床に結びつく基礎を学修します。さらに、1年次に学んだ基礎を繰り返し学習することで、臨床教科への基本的知識とする。				
〈到達目標〉				
形態機能学に欠かせない用語を正しく分類し、列挙することができる。また、各構造と機能に対し、理解した上で説明することができる。臨床的事例に対し、形態機能学から解釈することができる				
2 授業内容				
第1回	血液 血液と免疫	第16回	内分泌5/5 ホルモンの内部環境の恒常性維持 生殖1/2 性分化と生殖器 生殖2/2 妊娠と分娩 高齢者の生理学的特徴・変化1/2 高齢者の生理学的特徴・変化2/2 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化1/2 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化2/2 最終評価	
第2回	骨の生理1/2 骨の構造と成長	第17回		
第3回	骨の生理2/2 骨のリモデリング、骨代謝	第18回		
第4回	循環器1/3 心臓と心電図	第19回		
第5回	循環器2/3 心周期、血管の特徴	第20回		
第6回	循環器3/3 循環器調節	第21回		
第7回	呼吸器の生理1/2 構造と換気、肺気量	第22回		
第8回	呼吸器の生理2/2 ガス交換と運搬、調節	第23回		
第9回	尿の生成と排泄1/3 腎臓の構造と機能、尿生成			
第10回	尿の生成と排泄2/3 尿細管機能			
第11回	尿の生成と排泄3/3 腎機能の調節と排尿			
第12回	内分泌1/5 内分泌腺とホルモン			
第13回	内分泌2/5 ホルモンの種類と作用			
第14回	内分泌3/5 視床下部ホルモン			
第15回	内分泌4/5 非視床下部ホルモン			
3 履修上の注意				
十分な予習、反復学習が必要となります。				
生理学を理解し、医療従事者として必要最低限の知識を全員が習得する様にしましょう。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
LMS内の問題や課題に関しては、必ず取り組む様にして下さい。また、講義後には確認テストを当日中に終える様にしましょう。				
5 教科書				
指定教科書				
6 参考書				
講義資料、各種資料・教材については積極的に利用して下さい。				
7 成績評価の方法				
定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能	東海大学医学部生体構造機能学助教		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
形態機能学 3（運動学）		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
棗 寿喜		4単位	80時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
柔道整復師に必要な基礎学力としての運動学を修得する。学習内容は解剖学と生理学を基礎に、分化・成長および老化の段階を運動器にフォーカスした諸器官の構造・機能と役割である。運動学の各領域における科学的根拠とその理解力を促す。前期は主に運動器系の解剖生理学をまとめ、後期において歩行や反射を含めた動的な運動学の基礎を学修する。				
〈到達目標〉				
国家試験水準をPrimary学修到達目標と位置づける。分化成長、発達、加齢に基づいた変化を細胞レベルから運動器へ網羅的に学ぶ事で理解する。				
2 授業内容				
第1回	運動学における面と軸	第21回	足関節と足部の運動	
第2回	身体運動に関与する力	第22回	体幹と脊柱の運動①	
第3回	運動学のでこ	第23回	体幹と脊柱の運動②	
第4回	運動の法則	第24回	胸郭の運動	
第5回	骨の構造、関節の運動	第25回	骨盤の運動	
第6回	骨格筋の構造と特徴	第26回	顔面・頭部の運動	
第7回	骨格筋の収縮システム① 筋収縮に関わる構造	第27回	姿勢の定義と重心	
第8回	骨格筋の収縮システム② 興奮収縮連関	第28回	立位姿勢の安定性条件	
第9回	感覚の受容と神経系（求心）	第29回	姿勢の評価の運動介入①	
第10回	神経系の構造	第30回	姿勢の評価の運動介入②	
第11回	神経系の機能と運動	第31回	歩行運動① 歩行の定義と歩行周期	
第12回	随意運動のまとめ	第32回	歩行運動② 歩行周期と運動器の関係	
第13回	反射① 反射の基礎 下位の反射	第33回	運動発達① 幼児期の運動特徴と発達	
第14回	反射② 上位の反射	第34回	運動発達② 小児－成人の運動特徴	
第15回	上肢帯の運動	第35回	運動学習① 運動学習の定義	
第16回	肩関節の運動	第36回	運動学習② 運動学習のメカニズム	
第17回	肘関節/前腕の運動	第37回	関節の運動学まとめ	
第18回	手関節・手の運動	第38回	関節のバイオメカニクス	
第19回	股関節の運動	第39回	様々な動作を力学的に見る	
第20回	膝関節の運動	第40回	最終評価	
3 履修上の注意				
医療従事者としての使命を果たすために、出席は基本的条件として、遅刻や欠席は認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
1年次、2年次に行われている他科目（解剖学・生理学など）の学習を十分に行う				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病と傷害	歯科医師・歯学博士として臨床・教育の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
疾病と傷害 1（病理学概論）		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
新井 啓之		4単位	60時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
人の疾病理解の基礎となる病因・発生機序・経過・予後など、疾病概念の本質を理解し、基礎的疾患に共通する総合的問題、すなわち退行性病変・代謝異常症・進行性病変・循環障害・炎症・免疫・腫瘍などを中心として、次の事項を学習する。				
①ヒトの組織・細胞・遺伝子障害とその修復について説明できる。②代謝障害、循環障害、炎症・免疫、腫瘍について説明できる。③ヒトの各臓器の主な疾病とその症状について説明できる。④本学科の学習を通じて国家試験レベルの事項とともに、チーム医療を担う医療人としての力を習得できる。				
〈到達目標〉				
本講義の到達目標は病気概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにある。				
2 授業内容				
第1回	病理学の意義…病理学とは	第16回	循環障害①血液の循環障害…虚血～血栓症	
第2回	疾病の一般①健康と疾病、疾病の分類	第17回	循環障害①血液の循環障害…血栓症～梗塞	
第3回	疾病の一般②病変と症候、病名	第18回	循環障害②リンパ液の循環障害	
第4回	疾病の経過、予後、転帰	第19回	進行性病変①進行性病変（病的増殖）の定義、②肥大、過形成	
第5回	内因①素因と体質、②遺伝、③内分泌障害、④免疫	第20回	進行性病変③再生、④化生、⑤創傷治癒、組織内異物の処理⑥移植	
第6回	外因①栄養障害、②物理的外因	第21回	炎症①炎症の一般…炎症の原因～炎症の形態学的変化	
第7回	外因①化学物質、②病原微生物の病因作用	第22回	炎症②炎症の分類…炎症の経過、形態による分類	
第8回	退行性病変①退行性病変（代謝障害）の定義	第23回	免疫異常、アレルギー①免疫の仕組み…抗原～サイトカイン	
第9回	退行性病変②萎縮…萎縮の種類	第24回	免疫異常、アレルギー②免疫不全③自己免疫異常	
第10回	退行性病変③変性…変性の定義	第25回	腫瘍①腫瘍の一般	
第11回	退行性病変③変性…老化	第26回	腫瘍②腫瘍の分類	
第12回	退行性病変④壊死…壊死の定義、壊死の分類	第27回	先天性異常①先天性異常総論…遺伝子、染色体とは	
第13回	退行性病変④壊死…壊死の転帰、アポトーシス	第28回	先天性異常②奇形の原因	
第14回	退行性病変⑤死…死の定義、死の判定、死後の変化	第29回	先天性異常③奇形成立の時期④奇形の種類	
第15回	循環障害①血液の循環障害…充血～出血	第30回	最終評価	
3 履修上の注意				
単元ごとに把握をし、試験によってその把握内容を確認する。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
毎授業後に各自必ず復習をする。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病と傷害	医師・看護学校教員の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
疾病と傷害 2（一般臨床医学）		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
田中 明郎		4単位	45時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
柔道整復師は外傷の治療を担うが、患者によっては内因性疾患を合併している者もあり、未治療である場合は適切な医療機関への受診を促す必要がある。そのためには主な内因性疾患についての基本的な知識を有し、患者の示す症候についても広く知っている必要がある。				
〈到達目標〉				
主な内因性疾患の概要と主な症候について幅広く知識を獲得することである。				
2 授業内容				
第1回	呼吸器疾患①	第16回	血液・造血器疾患②	
第2回	呼吸器疾患②	第17回	腎・尿路疾患①	
第3回	循環器疾患①	第18回	腎・尿路疾患②	
第4回	循環器疾患②	第19回	後期中間試験	
第5回	循環器疾患③	第20回	神経疾患①	
第6回	消化器疾患①	第21回	神経疾患②	
第7回	消化器疾患②	第22回	神経疾患③	
第8回	消化器疾患③	第23回	神経疾患④	
第9回	前期試験	第24回	感染症①	
第10回	消化器疾患④	第25回	感染症②	
第11回	代謝疾患	第26回	膠原病・アレルギー①	
第12回	内分泌疾患①	第27回	膠原病・アレルギー②	
第13回	内分泌疾患②	第28回	その他の疾患・病態①	
第14回	内分泌疾患③	第29回	後期試験	
第15回	血液・造血器疾患①	第30回	その他の疾患・病態②	
3 履修上の注意				
各疾患の病態、診断、治療について知ると同時に症候別に考慮されうる疾患を想起する事ができる様に知識を有機的に結合する努力をすること				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
疾患は正常な構造と機能が障害された状態であるので、解剖学と生理学の復習を同時にするのが望ましい				
5 教科書				
全国柔道整復学校協会監修教科書　一般臨床医学				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験の得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	疾病と傷害	整形外科医、整形外科勤務。日本スポーツ協会スポーツドクターの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
疾病と傷害 4（整形外科学）		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
梅澤 香貴		2単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。 始めに、整形外科学の基礎となる運動器の解剖学を学ぶことで、基本的な診察法の概要を把握する。また、西洋医学における外科的治療法についても知識を得る。 次に、疾患の総論として、整形外科学のうち肩関節の疾患（肩関節周囲炎など）、肘関節の疾患（テニス肘など）、手関節の疾患（ド・ケルバン病など）、体幹の疾患（椎間板ヘルニアなど）、股関節の疾患（先天性股関節脱臼など）、膝関節の疾患（半月板損傷など）、足関節の疾患（足関節捻挫など）および骨端症（オスグッド・シュラッテル病など）について学習し、運動器の治療を行うための整形外科学全般の基本的な知識を身につける。				
〈到達目標〉				
骨・関節損傷やスポーツ外傷、各整形外科疾患の特徴や各身体部位別の損傷の特徴などについて理解すること				
2 授業内容				
第1回	運動器の基礎知識			
第2回	整形外科診察法			
第3回	整形外科検査法			
第4回	整形外科的治療法			
第5回	骨・関節損傷総論			
第6回	スポーツ整形外科総論			
第7回	疾患別各論①（感染性疾患・腫瘍）			
第8回	疾患別各論②（非感染性疾患・骨端症）			
第9回	疾患別各論③（全身性骨軟部疾患・神経筋疾患）			
第10回	体幹の損傷			
第11回	肩甲帯および上肢の疾患①			
第12回	肩甲帯および上肢の疾患②			
第13回	骨盤および下肢の疾患①			
第14回	骨盤および下肢の疾患②			
第15回	最終評価			
3 履修上の注意				
遅刻・欠席はもちろん授業放棄（講義中の居眠り等）は認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
1年次に履修している内容は貫壁にしておく。				
5 教科書				
6 参考書				
標準整形外科学、神中整形外科学				
7 成績評価の方法				
定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	柔道整復術の適応	整形外科医、整形外科勤務。日本スポーツ協会スポーツドクターの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復術の適応（整形外科学2）		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
梅澤 香貴		2単位	30時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本科目では、主要な運動器疾患（頭頸部、上肢部の骨関節疾患、神経・筋疾患など）の概念、原因、症状、診断、治療について理解し、運動器疾患における診断学を学ぶと共に治療学の概論を学習する。 特に臨床と関連の疾患については重点的に学習する。その際、人体構造学（運動器系）と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。				
〈到達目標〉				
柔道整復術を適切に実践する能力を身につけ、実際の現場において適切な判断が出来るようになること				
2 授業内容				
第1回	柔道整復術の適否を考える			
第2回	損傷に類似した症状を示す疾患①			
第3回	損傷に類似した症状を示す疾患②			
第4回	損傷に類似した症状を示す疾患③			
第5回	血流障害を伴う損傷			
第6回	末梢神経損傷を伴う損傷			
第7回	脱臼骨折			
第8回	外出血を伴う損傷			
第9回	病的骨折及び脱臼			
第10回	意識障害を伴う損傷			
第11回	脊髄症状のある損傷			
第12回	呼吸運動障害を伴う損傷			
第13回	内臓損傷の合併が疑われる損傷			
第14回	高エネルギー外傷			
第15回	最終評価			
3 履修上の注意				
遅刻・欠席はもちろん授業放棄（講義中の居眠り等）は認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
1年次に履修している内容は貫壁にしておく。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験の得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				
整形外科医、整形外科勤務。日本スポーツ協会スポーツドクター				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道実技（柔道2）		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
田村 昌大、竹村 春樹		1単位	40時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
1882年に嘉納治五郎師範によって創始された柔道は、現在200か国に普及発展を遂げている。柔道整復師における柔道実技は、理合いを体得することで整復実技等の応用力に繋がるものである。1年時で学んだ基本技術を活用しながら、実践的な場面に応用できる技術を身につけることを目的とする。				
〈到達目標〉				
1年次に体得した礼法や受身や技術練習の反復練習を繰り返しながら、投の形の基本動作を学んでいく。				
2 授業内容				
第1回	1年次の復習 礼法	第16回	乱取②	
第2回	1年次の復習 後方受身	第17回	投の形 礼法①	
第3回	1年次の復習 側方受身	第18回	投の形 礼法②	
第4回	1年次の復習 前方回転受身	第19回	確認テスト	
第5回	打込	第20回	最終評価	
第6回	小内刈の習得			
第7回	払腰の習得			
第8回	内股の習得			
第9回	寝技基本練習①			
第10回	寝技基本練習②			
第11回	確認テスト			
第12回	柔道の試合とルールについて			
第13回	約束練習①			
第14回	約束練習②			
第15回	乱取①			
3 履修上の注意				
ケガ防止のため担当者の指示に必ず従うこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内で実施した内容を次の授業までに復習しておくこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
確認テスト30％、実技テスト70％ 授業態度や出欠状況にも留意すること。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床柔道整復学	整形外科に勤務し外傷の処置、整形外科的疾患のリハビリの実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（各論） 1		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
沼尻 昭		4単位	80時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
本講義では解剖学的な知識を基に、柔道整復師の業務範囲である骨折や脱臼、軟部組織損傷の合併症として起こりうる内臓損傷を理解し、臨床現場に出た際に注意する点や見落としてならない点なども解説していく。合併症を理解することにより柔道整復師が扱える疾患かの判断をすることが出来るようになることを目的とする。				
〈到達目標〉				
各疾患（骨折・脱臼）の損傷のメカニズムや症状および合併症を解剖学的視点から考察することが出来るための力を身につけていくことが目標である。				
2 授業内容				
第1回	総論(合併症)	第21回	上腕骨骨幹部骨折①	
第2回	頭部、顔面部の解剖と機能①	第22回	上腕骨骨幹部骨折②	
第3回	頭部、顔面部の解剖と機能②	第23回	上腕骨顆上骨折	
第4回	頸部の解剖と機能①	第24回	上腕骨外顆骨折	
第5回	頸部の解剖と機能②	第25回	上腕骨内側上顆骨折	
第6回	胸・背部の解剖と機能①	第26回	橈骨近位端部骨折・肘頭骨折	
第7回	胸・背部の解剖と機能②	第27回	橈骨骨幹部骨折・ガレアジ骨折	
第8回	腰部の解剖と機能①	第28回	尺骨骨幹部骨折・モンテギア骨折	
第9回	腰部の解剖と機能②	第29回	定期試験	
第10回	定期試験	第30回	前腕両骨骨幹部骨折	
第11回	骨盤部の解剖と機能①	第31回	橈骨遠位端部骨折①	
第12回	骨盤部の解剖と機能②	第32回	橈骨遠位端部骨折②	
第13回	上腕部の解剖と機能①	第33回	舟状骨骨折	
第14回	上腕部の解剖と機能②	第34回	三角骨骨折・有鉤骨骨折・豆状骨骨折	
第15回	前腕部の解剖と機能①	第35回	中手骨骨頭部・頸部骨折①	
第16回	前腕部の解剖と機能②	第36回	中手骨頸部骨折②、中手骨骨幹部骨折	
第17回	手指部の解剖と機能①	第37回	第1・5中手骨基部骨折、基節骨骨折	
第18回	手指部の解剖と機能②	第38回	中節骨骨折、末節骨骨折	
第19回	定期試験	第39回	定期試験	
第20回	試験解説	第40回	最終評価	
3 履修上の注意				
人体の構造を理解するための基礎となる為毎回必ず出席をすること。講義中も受身ではなく自分自身でも考えながら聴講するように。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前週の授業範囲の内容を復習し授業にのぞむこと。学習に遅れが生じるのであれば担当教員に確認するなどの行動をし遅れを取り戻すように。				
5 教科書				
柔道整復学・理論編、解剖学				
6 参考書				
標準整形外科学				
7 成績評価の方法				
定期試験全4回の平均点及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	軟損各論			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔整整復理論（各論） 7		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 青也、佐藤 洋平		4単位	120時間	講義
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
人体の構造、特に運動器や支持組織の軟部組織においての基本的な構造を理解することで、臨床現場で活かされる教科となる。上肢・下肢の軟部組織損傷とそのメカニズム及び固定法や施方法など治療法を習得することが必要である。				
〈到達目標〉				
・教科書の内容を満たす知識の習得。 ・臨床現場にて軟部組織損傷の評価に用いる検査法の知識の習得。				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション・肩関節①	第31回	足関節③	
第2回	肩関節②	第32回	足部①	
第3回	肩関節③	第33回	足部②	
第4回	肩関節④	第34回	足部③	
第5回	肘関節①	第35回	下肢神経障害①	
第6回	肘関節②	第36回	下肢神経障害②	
第7回	肘関節③	第37回	四肢骨端症①	
第8回	肘関節④	第38回	四肢骨端症②	
第9回	定期試験	第39回	定期試験	
第10回	手関節①	第40回	軟部組織損傷総括	
第11回	手関節②			
第12回	手指部①			
第13回	手指部②			
第14回	手指部③			
第15回	上肢神経障害①			
第16回	上肢神経障害②			
第17回	股関節①			
第18回	股関節②			
第19回	定期試験			
第20回	股関節③			
第21回	大腿部			
第22回	膝関節①			
第23回	膝関節②			
第24回	膝関節③			
第25回	膝関節④			
第26回	下腿部①			
第27回	下腿部②			
第28回	足関節①			
第29回	定期試験			
第30回	足関節②			
3 履修上の注意				
・授業中は、講師の指示に従う。・出席状況と試験結果を成績評価の中心とする。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
・（予習）授業範囲を教科書にて確認。1年次の脱臼総論や骨折総論、解剖学の知識の予習。・（復習）毎回行う小テストの見返し。				
5 教科書				
6 参考書				
・なし				
7 成績評価の方法				
中間試験、期末試験、及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	専門分野			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復実技 2		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
佐々木 慎司、亀田 奈保子、源田 周人		2単位	80時間	実習
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
臨床現場において頻発し遭遇する機会の多い外傷を中心として包帯固定の実技を実施する。1年次に身につけた基本包帯法を2年次で行う各疾患に対して包帯固定を応用して実施する。臨床現場においての注意点や患者さんに対する気遣いや接し方についても解説していく。また担当教員の臨床経験も交え解説していくことで外傷の発生や治療に対する興味を喚起していくことも狙いとする。				
〈到達目標〉				
各外傷を理解したうえで包帯固定をできるようにする。				
2 授業内容				
第1回	肩関節の構造	第21回	指節関節の構造	
第2回	肩関節脱臼理論	第22回	PIP関節脱臼理論	
第3回	肩関節前方脱臼 固定①	第23回	第2指PIP関節背側脱臼 固定①	
第4回	肩関節前方脱臼 固定②	第24回	第2指PIP関節背側脱臼 固定②	
第5回	肩関節前方脱臼 固定③	第25回	第2指PIP関節背側脱臼 固定③	
第6回	肘関節の構造	第26回	手部の構造	
第7回	肘関節脱臼理論	第27回	手部損傷理論	
第8回	肘関節前方脱臼 固定①	第28回	第5中手骨頸部骨折 固定①	
第9回	肘関節前方脱臼 固定②	第29回	第5中手骨頸部骨折 固定②	
第10回	肘関節前方脱臼 固定③	第30回	第5中手骨頸部骨折 固定③	
第11回	手関節の構造	第31回	下腿部の構造	
第12回	橈骨遠位端部骨折理論	第32回	下腿骨幹部骨折理論	
第13回	コーレス骨折 固定①	第33回	下腿骨幹部骨折 固定①	
第14回	コーレス骨折 固定②	第34回	下腿骨幹部骨折 固定②	
第15回	コーレス骨折 固定③	第35回	下腿骨幹部骨折 固定③	
第16回	上腕骨骨幹部骨折理論	第36回	足関節の構造	
第17回	上腕骨骨幹部骨折 固定①	第37回	下腿部軟部組織損傷理論	
第18回	上腕骨骨幹部骨折 固定②	第38回	アキレス腱断裂 固定①	
第19回	上腕骨骨幹部骨折 固定③	第39回	アキレス腱断裂 固定②	
第20回	上腕骨骨幹部骨折 固定④	第40回	アキレス腱断裂 固定③	
3 履修上の注意				
授業には毎回必ず出席をすること。授業中も受身ではなく動作の意味等を考えながら参加するよう努めてもらいたい。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業前に柔道整復学・実技編も用いて該当範囲の予習をしておくことが望ましい。総合的に理解する為に毎回復習して次の授業に望むこと。				
5 教科書				
6 参考書				
標準整形外科学				
7 成績評価の方法				
基本的に定期試験の成績により評価する。定期試験の得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	柔道整復実技4	整形外科に勤務し外傷治療、外傷後の後療法の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復実技 4		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
佐々木 慎司、佐藤 洋平、沼尻 昭		3単位	120時間	実習
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
この授業は臨床現場で遭遇する機会の多い外傷を中心に実習を実施する。授業では理論的な内容を把握したうえでより臨床現場で役立つ診察法、整復法、検査法を身につける。臨床現場に出た際に注意する点や見落としてならない点なども解説していく。実際の授業に際しては外傷の特徴なども踏まえて解説していく。また担当教員の臨床経験も交え解説していくことで外傷の発生や治療に対する興味を喚起していくことも狙いとする。				
〈到達目標〉				
各外傷の発生を把握した上で診察法、整復法、検査法を理解し実施できるようにする。				
2 授業内容				
第1回	ガイダンス 肘内障の病態	第31回	肘関節脱臼診察・整復③	
第2回	肘内障診察・整復①	第32回	肘関節脱臼試験	
第3回	肘内障診察・整復②	第33回	コーレス骨折の病態 診察①	
第4回	肘内障試験	第34回	コーレス骨折診察・整復②	
第5回	肩腱板損傷の病態 診察①	第35回	コーレス骨折診察・整復③	
第6回	肩腱板損傷診察・検査②	第36回	コーレス骨折試験	
第7回	肩腱板損傷診察・検査③	第37回	下腿三頭筋肉離れの病態 診察①	
第8回	上腕二頭筋長頭腱損傷の病態 診察①	第38回	下腿三頭筋肉離診察・検査②	
第9回	上腕二頭筋長頭腱損傷診察・検査②	第39回	下腿三頭筋肉離診察・検査③	
第10回	上腕二頭筋長頭腱損傷診察・検査③	第40回	下腿三頭筋肉離れ試験	
第11回	肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷試験	第41回	骨盤骨骨折	
第12回	ハムストリング損傷の病態 診察①	第42回	大腿骨近位端部骨折・頸部骨折①	
第13回	ハムストリング損傷診察・検査②	第43回	大腿骨頸部骨折②	
第14回	ハムストリング損傷診察・検査③	第44回	大腿骨骨幹部骨折①	
第15回	大腿四頭筋打撲の病態 診察①	第45回	大腿骨骨幹部骨折②	
第16回	大腿四頭筋打撲診察・検査②	第46回	大腿骨遠位端部骨折	
第17回	大腿四頭筋打撲診察・検査③	第47回	下腿骨近位端部骨折	
第18回	ハムストリング損傷、大腿四頭筋打撲試験	第48回	下腿骨骨幹部骨折	
第19回	膝十字靭帯損傷の病態 診察①	第49回	下腿骨疲労骨折	
第20回	膝十字靭帯損傷診察・検査②	第50回	下腿遠位端部骨折①	
第21回	膝十字靭帯損傷診察・検査③	第51回	下腿遠位端部骨折②	
第22回	膝十字靭帯損傷試験	第52回	距骨骨折①	
第23回	肩関節脱臼の病態 診察	第53回	距骨骨折②・踵骨骨折①	
第24回	肩関節脱臼整復(コッヘル法)①	第54回	踵骨骨折②	
第25回	肩関節脱臼整復(コッヘル法)②	第55回	立方骨骨折・楔状骨骨折	
第26回	肩関節脱臼整復(ヒポクラテス法)①	第56回	中足骨骨折①	
第27回	肩関節脱臼整復(ヒポクラテス法)②	第57回	中足骨骨折②	
第28回	肩関節脱臼試験	第58回	足趾骨折	
第29回	肘関節脱臼の病態 診察①	第59回	定期試験	
第30回	肘関節脱臼診察・整復②	第60回	最終評価	
3 履修上の注意				
授業資料だけでは理解できない部分も多くあることから授業には毎回必ず出席をすること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業前に柔道整復学・実技編(南江堂)も用いて該当範囲の範囲の予習をし、各外傷を総合的に理解するために毎回の授業の復習をすること				
5 教科書				
6 参考書				
標準整形外科学				
7 成績評価の方法				
基本的には定期試験の成績により評価する。定期試験の得点は60%以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。				

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	臨床実習			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
臨床実習		2学年		必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
新才 博紀、大野 洋平		4単位	180時間	実習
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉				
実際の現場での学びを通し、養成施設での学習のみでは修得しえない医療者としての態度を修得し、患者などの利用者を正しく理解して、柔道整復術に対するニーズを把握するとともに、柔道整復師がどうあるべきかを考察することを目的とする。				
〈到達目標〉				
柔道整復施術所、医療機関の役割・機能を理解し適切な対応を学ぶ。柔道整復師としての責任と自覚を養い、実践的能力の修得に努める。				
2 授業内容				
第1回	オリエンテーション①	第31回	学外見学型臨床実習	
第2回	オリエンテーション②	第32回	学外見学型臨床実習	
第3回	学内臨床実習	第33回	学外見学型臨床実習	
第4回	学内臨床実習	第34回	学外見学型臨床実習	
第5回	学内臨床実習	第35回	学外見学型臨床実習	
第6回	学内臨床実習	第36回	学外見学型臨床実習	
第7回	学内臨床実習	第37回	学外見学型臨床実習	
第8回	学内臨床実習	第38回	学外見学型臨床実習学外見学型臨床実習	
第9回	学内臨床実習	第39回	学外見学型臨床実習	
第10回	学内臨床実習	第40回	最終評価	
第11回	学外見学型臨床実習			
第12回	学外見学型臨床実習			
第13回	学外見学型臨床実習			
第14回	学外見学型臨床実習			
第15回	学外見学型臨床実習			
第16回	学外見学型臨床実習			
第17回	学外見学型臨床実習			
第18回	学外見学型臨床実習			
第19回	学外見学型臨床実習			
第20回	学外見学型臨床実習			
第21回	学外見学型臨床実習			
第22回	学外見学型臨床実習			
第23回	学外見学型臨床実習			
第24回	学外見学型臨床実習			
第25回	学外見学型臨床実習			
第26回	学外見学型臨床実習			
第27回	学外見学型臨床実習			
第28回	学外見学型臨床実習			
第29回	学外見学型臨床実習			
第30回	学外見学型臨床実習			
3 履修上の注意				
実際の臨床実習現場で患者対応をするため、身だしなみや言葉遣いに十分注意をする。				
遅刻、欠席、早退は認めない。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
他の授業で実施した内容は必ず復習をし、実際の臨床実習現場で対応できるようにしておくこと。				
5 教科書				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
外部指導員と学校臨床実習調整者が、態度・付帯業務・診察・施術の介助・その他の項目で総合評価とする。				
8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）				